

西方白組が勝利! 今年は豊作となる

極寒でも熱気に 包まれた大俵引き

四百年の伝統を誇る坂下初市奇祭 大俵引きが一月十四日に執り行われました。俵太鼓の演奏で幕を開け、下帯姿の引き子たちが紅白（東方・西方）に分かれ、行司と太鼓の音を合図に一斉に大俵を引き合いました。勝負の行方を見守る観衆は、総勢一四九名の引き子たちによる迫力ある引き合いに大きな声援を送りました。

三本勝負の結果、熱戦を制したのは白組（西方）で、今年も豊作の一年となるという御神託を得ました。

また、大俵引きに先立ち、スポーツ少年団の子どもたちが「わっしょい！」という元気よい掛け声とともに俵引きを行いました。

そのほか、役場前では福が授かるという福豆俵まきや餅つき、富くじ抽選会なども行われ、役場前庭から通りまで大勢の人で埋め尽くされました。行事は終始賑やかに執り行われ、会津坂下町の明るい一年を見通すような初市となりました。



スポーツ少年団東西対抗俵引き



大俵引き

白組74名、赤組75名の引き子が参加 引き子は一年間恙病息災になると言われる



ブラジル使節団とタワライガー

福豆俵まきに参加しました



福豆俵まき

365個がまかれ、拾うと1年間福が授かると言われている



俵太鼓

初市の幕開けを告げる俵太鼓



餅つき

威勢よい掛け声で餅がつかれた



新春富くじ

豪華景品の自転車当選

市神様の移御、厳かに

毎年、初市の前日には市神様が日月神社から役場前に移御されます。これは寛永二年に初市が始まった際、市神様へ大俵引きを奉納し、商売繁盛、五穀豊穰を願ったことが起源とされています。

この日も橋本地区の皆さんを主体とし、市神様は移御され大俵前に奉られました。大俵引きが執り行われた後、今度は仲町地区の皆さんを主体とし還御されました。

これからも地区の方々により伝統が守り伝えられていきます。



供物なども行列に並ぶ



市神様が奉られる日月神社



役場前に無事お奉りされた



御神休は地区の年男が担ぐ